会話の教え方

Unit1 準備 Part2 会話活動に必要な能力

国際交流基金
日本語国際センター

1. はじめに

会話をするためには、どんな能力が必要なのでしょうか。

前回は、日常生活の「会話」についてふり返りましたが、今回は会話活動にどんな能力が必要なのかについて考えます。

● このパートのキーワード

言語構造的能力　社会言語能力　語用能力　方略（ストラテジー）

2. 「JF スタンダードの木」から見た会話

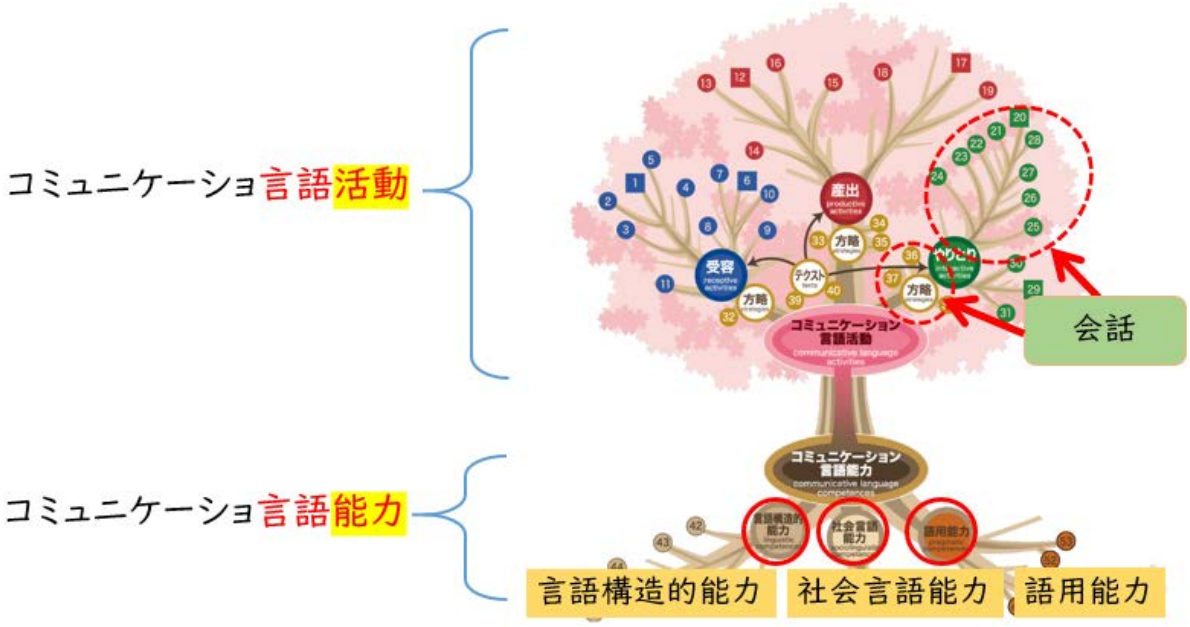
ここで、もう一度 JF スタンダードの木を見てみましょう（図1）。

JF スタンダードの木は、上と下の二つの部分からなっています。

上の枝のところは、「コミュニケーション言語活動」を表します。会話の活動は木の枝の緑色の「やりとり」とオレンジ色の「方略」のところに示されています。

下の根っこは、言語活動を支える基盤になる部分で、「コミュニケーション言語能力」を表します。それをそれぞれ、「言語構造的能力」、「社会言語能力」、「語用能力」と三つに分け

© 2023 The Japan Foundation



図Ⅰ JF スタンダードの木

られています。

つまり、会話活動を支えているのは、この三つの能力だということです。

JF 日本語教育スタンダード ： https://www.jfstandard.jpf.go.jp

それでは、次にそれぞれ具体的にどんな能力を指しているか詳しく見ていくことにしましょう。

（1） 言語構造的能力

まず、「言語構造的能力」は、具体的にはどんな能力を指しているのでしょうか、一つ会話例を見てみましょう。

© 2023 The Japan Foundation

会話例1：

A：ねえ、B さん、今晩忙しい？

B：え、どうしたの？

A：行きたい店があるんだけど、一緒に行かない？

B: ごめんね、今日はまだ仕事が終わらないから・・・

A：じゃあ、明日の夜は？

B: 明日ならだいじょうぶだと思う。

A: 良かった。じゃあ、明日ね

同僚や友だちを食事に誘うという会話例です。

この会話をするためには、「今晩」「忙しい」などの単語を知らなければなりません。これは言語構造的能力の一つ、語彙（ごい）の正しさです。

それから、文法も知らなければ、この会話はできません。たとえば、「何々したい」を使っていますね。これは言語構造的能力の一つ、文法の正しさです。

また、発音も正しくないと、自分の言いたいことを正しく相手に伝えることはできません。

このように、会話するためには、語彙や文法や発音などの正確さが必要です。言語構造的能力は、言語教育では昔から注目されてきた能力です。特に運用力の低い学習者にとっては重要です。

© 2023 The Japan Foundation

（2）　社会言語能力

それでは、会話活動を支えている三つの能力のうち、もう一つの「社会言語能力」について考えてみましょう。

一つ会話例を見てください。

会話例2：　【大学の研究室で】

学生：先生の論文、拝見しました。

すばらしいですね。

本当に先生はすごいですね。

先生：・・・

大学の研究室での、学生と先生との間の会話です。

この会話例では、さきほど説明した語彙や文法や発音などの言語構造的能力の面での問題はありません。

さて、どんなところに問題があるのでしょうか。

「すばらしいです」とか、「すごいです」とか、先生のことをほめています。

ほめることについて、あなたの国ではどうでしょうか。日本では、目下の人が目上の人を直接ほめてはいけないというルールがあります。ほめるときは、相手との関係をいつも考えなければなりません。

© 2023 The Japan Foundation

では、この場合、どう先生に言ったらいいでしょうか。

ほめるのではなく、「とても役にたちました」とか、「大変勉強になりました」とか、感謝の気持ちを伝えるという形にすればいいと思います。

このように、相手によって、言い方を変えること、人間関係や場面による適切さのことを「社会言語能力」と言います。

【タスク 1】「みんなの Can-do サイト」

https://www.jfstandard.jpf.go.jp/cando/top/ja/render.do

（*登録していない場合は、登録する必要があります。）

に行き、「Can-do を探す」というところで、「社会言語能力」の「□社会言語的な適切さ」の□の中にチェックを入れて、検索してください。下の A1 の Can-do 本文をうつしてください。

	Can-do 本文
A1	

（3） 語用能力

語用能力とはなんのことでしょうか。

二つ会話例を見てください。

© 2023 The Japan Foundation

会話例3

A：子供が熱を出したので、

帰らせていただきたいんですが。

B：あ、そうですか。

お子さん、大変ですね。お大事に。

会話例4

A：あのう、すみません。

B：どうしたんですか。

A：実は、子供が熱を出したので、

帰らせていただきたいんですが。

B：あ、そうですか。

お子さん、大変ですね。お大事に。

A：忙しいときにすみません。

B：だいじょうぶですよ。

早く帰ってあげてください。

どちらも会社や学校の目上の人に急用ができてすぐに家に帰らなければならないことを言って、許可をもらう場面です。

どちらが自然でしょうか。

会話例4のほうです。会話例3は、言いたいことだけ言って終わりです。それに対して、会話例4は、会話の始まりの部分、言いたいこと、会話の終わりの部分という三つの部分からなっています。自然な会話にはこのような流れがあります。

このように、話をするとき、先に何を言うか、それから何を言うか、最後に何を言うか、話の流れをコントロールし、まとまりのある話をする能力を「語用能力」と言います。

© 2023 The Japan Foundation

【タスク2】あなたは友だちにお金を借りようと思っています。どのように言いますか。会話の流れを考えてみてください。

3. 言語構造的能力とレベル

それでは、三つの能力と会話のレベルの関係を見てみましょう（次のページの表Ⅰ）。

レベルによってどんな違いがありますか。

まず言語構造的能力です。

一番下のA1レベルから見ていきます。

A1は「学習済(ず)みの」「いくつかの」「単純(たんじゅん)な文法構造」を使うことができます。ここでの条

（表Ⅰ 言語構造的能力 Can-do 一覧）

C2	ほかのことに注意を払っているときでも、高い文法駆使力を維持している。
C1	常に高い文法的正確さを維持する。誤りは見つけるのは難しい。
B2	高い文法駆使力がある。誤解につながるような間違いはない。
B1	誤りも見られるが、何を言いたいかは明らかに分かる。
A2	基本的な間違いがあるが、何を言いたいかはたいてい分かる。
A1	学習済みのいくつかの単純な文法構造

『JF教育スタンダードの利用者ガイドブックの資料編』より

https://www.jfstandard.jpf.go.jp/publicdata/ja/render.do

件は勉強したことがあること、数が少ないこと、「です」「ます」「は」のような簡単なものです。

© 2023 The Japan Foundation

A2は、「基本的な間違いがあるが、何を言いたいかはたいてい分かる」とあります。つまり、さきほどのその下の A1 レベルでは、これはできないということです。

B1 は「誤(あやま)りも見られるが、何を言いたいかは明らかに分かる」とあります。さきほどの A2 の「たいてい分かる」と比べたら、区別が分かります。

次の B2 はどうでしょうか。「高い文法 駆使力(くしりょく) がある」、つまり文法の知識だけでなく、それを使う能力も高いという意味です。さらに「誤解につながるような間違いはない」とあります。ということは、誤解につながらない間違いは少しあるかもしれないという意味です。

今度は C1 を見てみましょう。「常に高い文法的正確さを 維持(いじ) する」と書いてあります。「常に維持する」というのは C2 レベルの特徴の一つです。ということは、その下の C1 レベルはまだ不安定なところがあるという意味です。

一番高いレベルの C2 は「ほかのことに注意を払っているときでも、高い文法駆使力を維持している」とあります。つまり、文法はすでに意識しなくても自由自在に使えるということです。ということは、その下の C1 レベルはまだそれに到達していないということです。

4. 社会言語能力とレベル

それから、社会言語能力とレベルの関係を見てみましょう。

© 2023 The Japan Foundation

（表 2 社会言語能力 Can-do 一覧）

C2	自文化と他文化の間を効果的に仲介する。
C1	感情表現、間接的な示唆、冗談、目的に沿って、柔軟に効果的に言葉を使う。
B2	母語話者との対人関係を維持できる。
B1	自分の文化との違いに対する認識があり、配慮する。
A2	礼儀正しい言葉遣いで、短い社交的な会話
A1	最も簡単な日常的挨拶

『JF 教育スタンダードの利用者ガイドブックの資料編』より

https://www.jfstandard.jpf.go.jp/publicdata/ja/render.do

A1 は「最も簡単な日常的挨拶」で、たとえば、「おはようございます」「ありがとうございます」など決まった形の挨拶ができるレベルです。

A2 は「礼儀正しい言葉 遣(づか)いで、短い社交的な会話」とあります。たとえば、「今日は暑いですね」「お出かけでしょうか」などと、人間関係をよくするための会話ができるというレベルです。

B1 は「自分の文化との違いに対する認識があり、配慮する」ことができるようになります。つまり、さきほど出した会話例のように、先生をほめてしまうようなことはしないと思われるレベルです。

B2 は「母語話者との対人関係を維持できる」とあります。つまり、日常生活ではすでに日本人とふつうに付き合うことができるし、文化の違いによる誤解やトラブルも起きないだろうと

© 2023 The Japan Foundation

いうようなレベルになります。

C1 は「感情表現、間接的な示唆、冗談、目的に沿って、柔軟に効果的に言葉を使う」と書いてあります。日本の文化をよく知っていて、その知識を効果的に使えるほどかなり余裕ができている様子です。

C2 は「自文化と他文化の間を効果的に仲介する」と書いてあります。例えば、ほめることについて、日本ではこう、Aさんの国ではこう、自分の国では、こうとそれぞれの違いを知っていて、それぞれの文化の懸け橋になって、相互理解を促すことができるようなレベルです。

5. 語用能力とレベル

（表 3 語用能力 Can-do 一覧）

C2	さまざまな構成パターンや、幅広い結束手段を充分かつ適切に利用して、一貫性があり、結合性がある。
C1	さまざまな構成パターン、接続表現、結束手段を使え、上手く構成された、明快で流暢な話をする。
B2	複数の考えの間の関係を明確にするために、さまざまな結合語を効果的に使う。
B1	直線的に並べて、つながりをつける。
A2	簡単な接続表現
A1	非常に基本的な接続表現

『JF 教育スタンダードの利用者ガイドブックの資料編』より

https://www.jfstandard.jpf.go.jp/publicdata/ja/render.do

最後に語用能力とレベルについて見てみましょう。

© 2023 The Japan Foundation

A1 は「非常に基本的な接続表現」、たとえば、「て」「それから」などです。

A2 は「簡単な接続表現」、たとえば、「それなのに」「ですから」などです。

B1 は「直線的に並べて、つながりをつける」とあります。たとえば、ある一つの出来事を、はじめに何々、それから何々、最後に何々と言って、時間に沿(そ)って話すことです。

B2 は「複数の考えの間の関係を明確にするために、さまざまな結合(けつごう)語を効果的に使う」と書いてあります。つまり、こういう考えもありますが、一方では、別の考え方もあります。二つの考え方はそれぞれどういう違いがあるかなどについて、まとまりのある話ができるように、いろいろな接続表現が使えることです。

C1 は「さまざまな構成(こうせい)パターン、接続表現、結束(けっそく)手段を使え、上手(うま)く構成された、明快で流暢(りゅうちょう)な話を」します。

C2 は「さまざまな構成パターンや、幅広い結束(けっそく)手段を充分かつ適切に利用して、一貫(いっかん)性があり結合性がある」と書いてあります。「一貫性」というのは話全体の目的がはっきりしていて、話のすべての部分はその目的に向かっているということです。「結合性」というのはまとまっているということです。

さて、三つの能力とレベルの関係を見てきましたが、あなたのクラスの学習者はそれぞれどの辺にいるのでしょうか。

あなたはふだん学習者の会話力をバランスよく伸ばそうとしていますか。

【タスク3】 あなたのクラスの学習者はどの辺にいるのでしょうか。上の表1～表3のところに

© 2023 The Japan Foundation

それぞれ〇をつけてください。

4. 方略（ストラテジー）

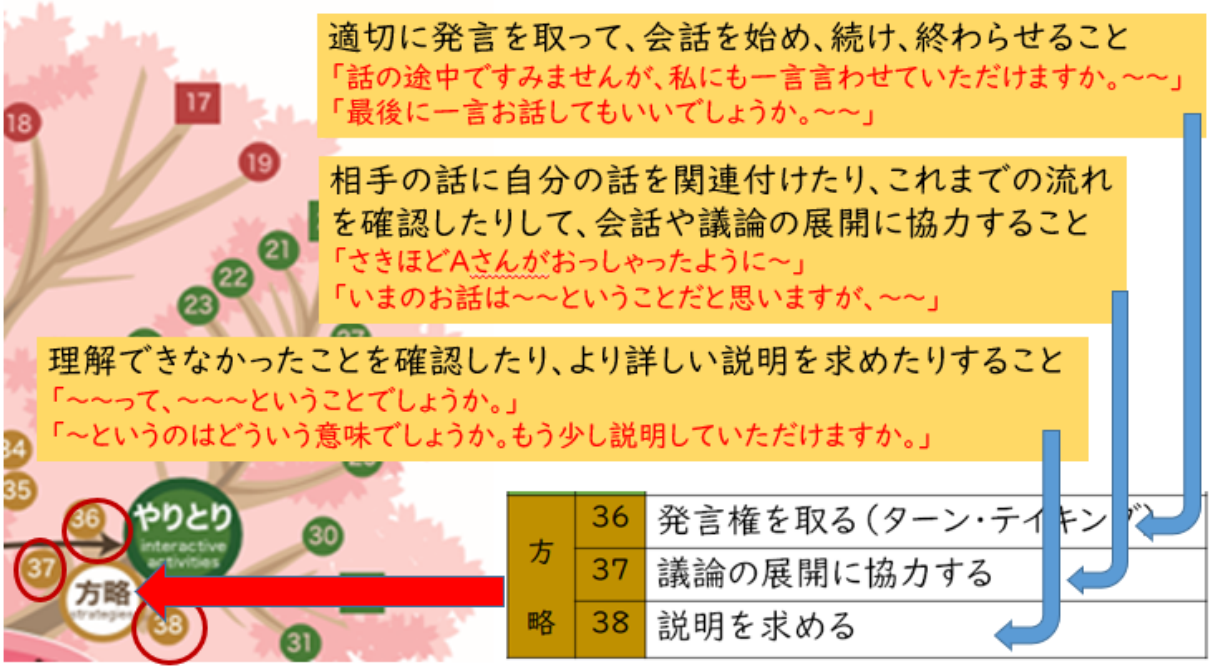


図2 方略（ストラテジー）

会話を支えるものとして三つの能力を取り上げましたが、ほかに、会話の技術として、「方略（ほうりゃく）」、つまりストラテジーがあります。

たとえば、話しているとき、どうしてもある単語を思い出すことができなかったとか、相手が言うことが分からなかったとか、自分が言っていることを相手がよく理解できなかったとか、そういうとき、いろいろな方法を使いますね。その方法のことを「方略」（ストラテジー）と言います。

JF スタンダードでは、36 番から 38 番までのカテゴリーにまとめられています。

© 2023 The Japan Foundation

「発言権を取る」とは、適切に発言権を取って、会話を始め、続け、終わらせることです。例えば、「話の途中ですみませんが、私にも一言言わせていただけますか。〜〜」と言って発言権を取ったり、「最後に一言お話してもいいでしょうか。〜〜」と言って、会話を終えたりすることです。

「議論の展開に協力する」とは、相手の話に自分の話を関連付けたり、これまでの流れを確認したりして、会話や議論の展開に協力することです。たとえば、「さきほど A さんがおっしゃったように〜」と、ほかの人の言葉を引用してから、自分の考え方を述べたり、「いまのお話は〜〜ということだと思いますが、〜〜」と、相手の話の内容をまとめてから自分の言いたいことを言ったりすることです。

「説明を求める」とは、さきほどもお話ししたように、理解できなかったことを確認したり、より詳しい説明を求めたりすることです。

例えば、「〜〜って、〜〜〜ということでしょうか。」と言って理解を確認したり、「〜というのはどういう意味でしょうか。もう少し説明していただけますか。」と言ってより詳しい説明を求めたりすることです。

あなたは会話の中でどんな「方略（ストラテジー）」を使っていますか。

5. まとめ

ここで、今回の授業の内容をまとめてみましょう。

会話の目的を達成するためには、言語構造的能力、社会言語能力、語用能力という三つ

© 2023 The Japan Foundation

の能力と方略（ストラテジー）が必要です。

レベルが上がるにつれて、三つの能力はより複雑化（ふくざつか）、高度化（こうどか）していきます。

これで今回の勉強を終わりにします。

■　このパートの参考文献と参考サイト

- 国際交流基金（2007）『話すことを教える』（国際交流基金　日本語教授法シリーズ 6）ひつじ書房
  - 「JF 日本語教育スタンダード」https://www.jfstandard.jpf.go.jp
  - 『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』 https://www.jfstandard.jpf.go.jp/publicdata/ja/render.do
  - 「みんなの Can-do サイト」 https://www.jfstandard.jpf.go.jp/cando/top/ja/render.do（要ログイン）

© 2023 The Japan Foundation

■　タスクの答え

【タスク1】

	Can-do 本文
A1	挨拶やいとま乞い、紹介、"please"「～してください」、"thank you"「どうもありがとう」、"sorry"「すみません」などの、最も簡単な日常的に使われる丁寧な言葉遣いで、基本的な社交関係を確立することができる。

【タスク2】

① 天気や近況報告などの前置き

② 自分がいまお金に困っていることの説明

③ お金を貸してもらいたいと思っていることの表明

④ 感謝の気持ちの表明、お金を返す話

日本語国際センターに来たいろいろな研修参加者に、母語でお金を借りるときの会話の流れを聞いたところ、③から始まる人と②から始まる人と①から始まる人に分かれました。このことからも、お金を借りることを話す前に、何か前置きの会話をするかどうか、自分の状況を詳しく説明するかどうか、会話の流れは、社会や文化によって違うことが分かります。あなたの場合はどのような流れにしましたか。

© 2023 The Japan Foundation

【タスク3】（答えは自由）

© 2023 The Japan Foundation